

H16東北支部見学会報告

今回のキーワードは、**ダム地質**、**洪水**、**地域防災**です。企画委員による2回目の見学会でありながら、当日まで不安要素を抱えていましたが、胆沢ダム関係者や牛山先生の丁寧な説明により、議論や意見交流も活発で、よい見学会でした。

■東北支部見学会日程

○9月10日(金)

8:30 JR仙台駅出発

12:00 胆沢ダム学習館 到着(昼食)

13:00~16:00 胆沢ダム現地見学

・学習館にて概要説明:胆沢ダム工事事務所調査設計課 大場課長

・左岸展望台→河床部→右岸ダム軸→左岸ダム軸→洪水吐き→石淵ダム

胆沢ダム工事事務所調査設計課 中川技官、前田建設 佐藤副所長、
アイ・エヌ・イー 末岡氏

16:30 すばおあご 到着・宿泊

17:30~ 検討会及び懇親会

・第12回海外調査団(イタリヤ巡検)の報告:橋本代表幹事、中里元幹事

○9月11日(土)

8:30 すばおあご 出発

・バスの車窓から胆沢扇状地の地形見学

10:30~12:00 H14年7月9日豪雨による浸水箇所見学

東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター 講師 牛山素行氏

・ハザードマップと防災情報の活用の現状

・川崎村、北上大橋の浸水地見学

・東山町役場付近の浸水地見学

12:00~14:00 猊鼻溪舟下り(昼食)

16:30 JR仙台駅西口 到着・解散

9月10日(金) 見学地「胆沢ダム」(岩手県胆沢郡胆沢町)

完成すればフィルダムとしては、日本最大級の堤体積となる予定の胆沢ダムを見学した。現在は堤体基礎掘削工事也大詰めで、岩盤検査終了直後の大露頭に張り付きハンマーを振るいながら、活発な議論が行われました。胆沢ダム工事事務所調査設計課 大場課長、中川技官、前田建設 佐藤副所長、アイ・エヌ・イー 末岡さん、本当にお世話になりました。



当学会の路線を変更し(?)、サロン付のゴージャスバスにて出発。仙台駅ではこのバスだけは違ふと誰もが思っており、乗車が遅れました。

胆沢ダム学習館で胆沢ダム工事事務所調査設計課 大場課長より、現在の工事の状況やCM方式を採用していることなど、概要についての説明を受けました。





左岸展望台から、右岸堤体をバックに記念撮影。ここからは材料ヤードや材料運搬用ベルコンなど工事の状況が一望できます(集合写真は拡大可能)。

展望台には、コア材、フィルタ材、ロック材の見本が展示されており、コア材は高位段丘堆積物、フィルタ材は低位段丘堆積物、コア材は大森山の石英安山岩を使用することでした。コア材は含水が少なく、細粒分も適度にあり施工し易そうでした。



本提、河床部の岩盤。通常の岩級区分の他に、粗鬆部・中間質部・緻密部という地質区分をしているとのこと、亀裂の多い変質軟岩の評価に苦労されているようでした。



↑ 右岸堤体の全景。下流側は柱状節理の発達した岩盤ですが、堤体付近は熱水により変色しているようです。
←このバスで見学。現場では、バスガイド付きの豪華バスで来た連中は初めてだと言われました。とにかく見学会中、視線を感じるバスでした。

石淵ダム堤体から、谷子沢地区地すべりの土塊を望む。
石淵ダムは日本初のロックフィルダムで、堤体上部から見ると、非常に斜面が急な印象を受けます。胆沢ダム完成時には水没してしまいます。
押さえ盛土材料はダムの湛水量が変わらないようにダム内から採取しているそうで



す。



検討会&懇親会

2004年8月19～27日の日程で、イタリア、フィレンツェで行われたIGCに、第12回海外調査団として東北支部から、太田副支部長、橋本代表幹事、中里元幹事の3人が参加しました。その報告はお膳を前にした検討会のリラックスした雰囲気の中に行いました。しかし、報告の途中で待ちきれず、予行練習が始まってしまい、そのまま懇親会へと移行しました。中里さんごめんなさい。



↑はじめに橋本代表幹事の報告。
ついでに中里元幹事の報告。
→中里さんの報告を聞きながら、宴会へと突入。その後もずっと宴会は続きましたが、意外に終了が早く、次の日は二日酔いの人はいませんでした。



9月11日(土)見学地 岩手県東磐井郡川崎村～東山村 H14.7 豪雨災害

豪雨災害および防災情報についての研究をされている東北大学大学院工学研究科 附属災害制御研究センター 講師の牛山素行先生に、H14.7の台風6号による豪雨災害の状況、防災情報の利用やその現状についてご説明頂きました。
アンケート結果では、ハザードマップの存在を知る人が少なく、インターネットのリアルタイム雨量情報を知っていた人、更に実際に使っていた人はほとんどいなかったとのことで、情報インフラが整備されても使われないという実態があったとのことでした。
ハード面の整備だけでは、地域防災に限界があるようです。応用地質学会からの発信をどう伝えていけるのか、ヒントになりました。



東山村農協の看板には、冠水を示す赤ラインが示してありました。
比高1mの違いが、浸水の有無となって現れた箇所もあったようです。

牛山先生の説明に耳を傾ける参加者。
牛山先生が手に持っているのは、参加者に大人気だったクリノメータ。ほかにもGPSやレーザ距離計もお持ちでした。
地質屋さんは意外にこういうのが好きなんです。気になる方はこちら↓。
<http://www.tec-inter.co.jp/suunto.html>





そして最後は、猯鼻溪の舟下り。船頭さんのしおれた口調が、結構笑わせてくれました(集合写真は拡大可能)。

ペルム紀の石灰岩からなる比高100m以上の、大猯鼻岩です。景勝地の巡検も楽しいですね。でも、この露頭全部スケッチしろと言われたら……。

